

東京電機大学のワークショップに参加して

中学1年 K.川島

7月19日に北千住駅近くの東京電機大学に行きました。地下や屋上など色々なところを見てすごくおもしろかったです。

東京電機大学にはすごいところがたくさんありました。それは、一番最初に入ったときに気づいたのですが、ICカードでした。校舎に入るときは必ず専用のICカードをかざして校舎へ入ります。理由は、大学の周囲にはさくがなく、誰でも入ってこれてしまうためです。

2番目にすごいと思ったのは、掲示物です。掲示物はすべて液しょうパネルなのです。紙の掲示物は校内に1枚もないそうです。

しかも電機大には緑が多いことにも驚きました。たまたまその日はくもっていたのであまり見えなかったけれど、屋上からはスカイツリーがよく見えしました。晴れている日には富士山も見えるそうです。

私が1番おどろいたのは、ICカードを「ピッ」ってやると、その人がいつ学校を出たか、今学校にいるかなどが分かることです。しんさいの時などに役立つからすごいと思いました。

学生の人と話した時、学食のことをききました。「電機大の学食はどんな感じですか？」「セットは2つ。魚と肉と、あとはうどん」といっていました。「学食はおいしいですか？」ときいたら、「それほどおいしいとはいえない」そうで、ちょっと残念でした。

でも電機大のワークショップはとてもよいけいけんになりました。

中学3年 R.荒井

大学から見える景色や部屋がとてもキレイでした。そんな東京電機大学にも怪しい地下があり、びっくりしました。でもその怪しい地下には、大学の快適な生活や安全を支えている大事な役割が山ほどあって、日本の技術は本当にすぐれていると改めて感じました。

また省エネも徹底していて、人がいなくなると自動的に電灯や冷房などが切れる仕組みがすべての教室や研究室につくられているのは、とてもいいと思いました。それに、窓は2重になっていて効率よく熱をさえぎったり、逆に逃がさないようにする工夫がされていて、環境問題を真剣に考えているよい大学だと分かりました。これからは、このような大学がもっと増えていくといいなと思いました。

高校1年 M.村上

私は、東京電機大学に行き、たくさんのことが学べました。

少し前に建築科について興味を持ち始めたので、東京電機大学が行っている環境のための工夫や防災（近年では「減災」と言われている）、理系大学ならではの建物へのこだわりや活動を知ることができ、よかったです。

私が特に興味を持ったのは、空調を重視した部屋づくりや電大独自のエコシステムです。私は大学の部屋の空気がとてもキレイで驚きました。空気清浄機を置いているわけではないのですが、どうしてこんなに空気がキレイなんだろうと不思議に思いました。またその空気をただ捨てるのではもったいないので、二重ガラスの窓の間を通らせるとエコになるというのにも感心しました。窓にはさらに工夫があって、透明のフィルムで太陽からの熱を減らしているのはとてもエコだと思いました。

屋上にはソーラーパネルもあったのですが、大した電気は作れないと知り、少し残念だったけど、電気を作るのが難しいならやはり電大がやっているように、電気をいかに節約するかの方が大切だと分かりました。二重窓をつくるには費用がかかるけど、長い目で見たときに工夫した方が、みんなにとって得だと思いました。

高校2年 N.小林

今回東京電機大学を見学して一番驚いたことは、窓一つでも工夫することが沢山あるということでした。

これまで私は窓を、家の印象を決めるもの、光を取り入れるもの、換気をするものとしてしか見ていませんでした。しかしそれだけで心地よい生活が送れる訳ではなく、エネルギーを効率よく活用できる訳でもありません。

東京電機大学の窓は、ブラインドが内蔵された複層ガラスでした。複層ガラスで断熱性を高め、ブラインドの角度を自動で太陽の高さに合わせることで光の量を調節することができ、断熱効果を一層あげることができます。またブラインドがガラスで囲まれている構造は、ブラインドが折れる心配がないうえ、ひもによる子供の窒息事故を防ぐというメリットがあることに気づかされました。さらに窓に当たった日光の反射を地面に向けるのではなく、斜め上へ向けることでヒートアイランド現象を緩和することができます。

次に印象に残っていることは、建築家が植える植物にも配慮しているということでした。建築に関わっていることの幅の広さを改めて知りました。

建築するということは、ただ建物を建てるということではなく、それを利用する人が快適に、また安全に過ごせるようにすることだと知ることができ、よい勉強になりました。